

## 新年のご挨拶： 共に成し遂げてきた進歩と これからの道のり



国際電気通信連合 事務総局長

ドリーン・ボグダン＝  
マーティン

日本ITU協会の会員の皆様へ新年のお祝いを申し上げます。

近年は地政学的緊張や経済と雇用への懸念の高まり、世界的パンデミックによる影響や不安定な食糧安全保障、環境と気候の問題など、私たちにとって困難な時期です。

脅威と不確実性が共に増大していく中、私たちは世界をつなぐという使命の達成を急がなければいけません。

コネクティビティへの必要性は重要となり、多くの人々はより迅速にオンラインでつながるようになりました。同時に指導者たちは情報格差（デジタルディバイド）を縮める必要性に注力するようになりました。このデジタルディバイドによって世界人口のほぼ3分の1は完全にオフラインのままであり、さらに何億人もの人々が、有意義なコネクティビティのない状態となっています。

「完全に接続した世界」という夢を達成するまでには、まだ長い道のりがありますが、新年にあたって、私がITUの規制チームに初めて参加した1994年から今日までを振り返ってみましょう。当時のインターネット利用者は、世界人口の0.1%未満である2000万人程度でしたが、現在は推定53億人となり、その数は毎週増えています。

この進歩は、ITUスタッフの不断の努力や、ITUメンバーの確たる支援、献身、貢献によってもたらされたものです。

数々の地上通信インフラストラクチャ、ソフトウェア プロトコル、衛星システム、海底ケーブル、無線周波数などの資源の共用に関する数々の取り決めは、ITUの旗振りの下に行われる重要な技術・規制・開発業務に基づくものです。これは、私たちが大いに誇りに思っています。

この長い道のりの中、日本政府と日本ITU協会が私たちの仕事を支えるために果たしてきた役割は言い尽くせません。

何年もの間イノベーションとデジタル開発を牽引してきた

日本は、電気通信標準化部門（ITU-T）及び無線通信部門（ITU-R）の研究グループを通じ、新しい技術標準とリーダーシップを構築することに貢献してきました。そして自然災害や環境的課題に対処し、最も必要としている人々に有意義な接続を拡大していくよう、ITUと協力してきました。

そして世界的伝染病が猛威を振るう中、Connet2Recoverイニシアティブの創設メンバーとして先陣に立ち、世界の後発開発途上国、内陸開発途上国、小島嶼（とうしょ）開発途上国、変革や混乱に直面している国々のデジタルレジリエンスを強化するために、ITUやそのパートナーと共に貢献してきました。人々が信頼できるつながりを持つデジタルの未来を築くために、日本が示してきた責任と支援に対して、心からの称賛と感謝の意を表します。

2022年ルーマニアでの全権委員会議会で承認された2024-2027年のITU戦略計画は、「ユニバーサルコネクティビティ」と「持続可能なデジタル変革」という2つの戦略的ゴールを目指すものです。

これらの目標を達成するためには相当の困難が伴いますが、私たちがグローバルビジョンを共有すれば、決して越えられないものではありません。SDGsの達成を目指す2030年に向けて、誰一人取り残さないために、デジタル技術の力と可能性を活用するチャンスを掴まなければなりません。

私たちが今日とる行動は、私たち自身のためだけでなく、これからの世代の人たちにとっての未来への礎となります。アントニオ・グテーレス国連事務総長が言ったように、「われらリーダーは、われら人民に奉仕せねばならない」のです。

ITUは、待ち受ける課題と取り組むために、日本の並はずれたエネルギーと専門知識をこれからも期待しています。世界を変えていくための技術とコネクティビティの力を向上させる新たな方法を見つけていくために、ITU-Tの新局長、尾上誠蔵氏を含むITUの新体制で、共に働けることを楽しみにしています。

デジタル発展の促進とイノベーション推進にかけがえない役割を果たしてきて下さった日本政府、日本ITU協会、日本の数多くのITUセクターメンバーとパートナーの皆様へ、重ねてお礼申し上げます。

今年も、そしてこれからも、皆様にとって繁栄と進歩のある、平和な年となりますように。